
Q 3 LDの子どもたちへの支援は、どのように行えばよいでしょうか

LD（学習障害）といっても、その症状は様々です。まず、一人一人のつまずきや支援の必要な部分を把握し、個に応じた手立てを考えていくことが大切です。

- 1 子どもを大切にしたかわりを
つまずきの様子（いつ・どこで・どのような）をよく観察し原因を探ります。
一人一人特有の学び方があるという視点を持ち、できないところだけでなく伸ばしたい面もみつけましょう。
一人で抱えこむのではなく、複数の教員の共通理解のもと指導を行う必要があります。
- 2 学習指導の工夫
LDの子どもたちは、学習内容を習得するのに時間がかかったり、その子ども特有の困難さがみられたりします。授業の際には、学習の見通しが立ち、学習に取り組みやすいようにしましょう。
- 3 成就感を味わえるようにし、自信をつける
一度に多くのことを求めず、できるようになったことをほめるようにします。「できた」という経験を積み重ねることで、学習に対しての自信が生まれ、意欲的で主体的な活動につながっていきます。
- 4 有効な学習の場の設定
LDの子どもたちは通常の学級に在籍しており、通常の学級における指導を基本に対応していくことが重要です。しかし、学級担任の指導を確かにするために、教職員の共通理解を図ることも大切です。T・Tや特別な指導による対応など個に応じた手立ても工夫しましょう。

5 具体的な支援・指導

(1)「聞く」ことが苦手

「注意の集中に問題があって話が聞けない」
「言われていることが理解できないために聞き返してしまう」「理解はできているけれど記憶することができなくて忘れてしまう」ということが考えられます。まず、注意を喚起してから話すように心がけましょう。

そして、例えば、発問する前にそっと肩に手をあてる、絵や写真、カードなど視覚情報を用いて集中を助けるなどの支援があります。また、伝言ゲームなど「聞く」ことで楽しめる要素のあるものを取り入れていくことも有効です。



(2)「話す」ことが苦手

「事柄や順序を整理して話すことが苦手」「会話が一方的で話題が飛びやすい」「似ていることばを間違えてしまう」ことが考えられます。このような場合には、時間や順序に従いカードに書いて話をする、「はじめに」「次に」「最後に」などの話し方のパターンを練習する、話し始めに何について話すのかを確認してから話し始めるなどの指導が考えられます。

(3)「読む」ことが苦手

「目で字の形を捉えることが苦手」「一行のなかに並ぶ文字を追いかけてたりすることがうまくできない」場合があります。また、「拾い読みのため、意味上のかたまりとして単語を捉えることができない」「文字を間違った音として覚え、そのままで読んでしまう」ことも考えられます。

まず、「ひらがな、カタカナ」を正確に捉えているかを確認してみましょう。そして、単語として把握できているかも確認してみましょう。フラッシュカードを使う、指で文字を追う、スリットの入った用紙を活用し読む行だけが見えるものを使用する、ことばの意味理解を補うことも必要でしょう。

「音読」の学習では、授業前に読む場所を決め、いっしょに練習することなども支援の一つとして考えられます。

(4)「書く」ことが苦手

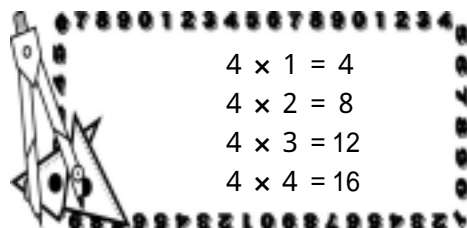
「目で見ただけの情報を正確に捉え、文字という形で表現することが苦手」「不器用のため書くことへの抵抗がある」ことなどが考えられます。また、「聞いた音と文字を対応させることができない」こともあります。このような場合、拗音、促音のつ



まずきも考えられます。支援としては、生活のなかで経験することや身近にある物を活字にする、また、文字の大きさ、使用するノートのマス目の大きさ、色等への配慮をしてみましょう。また、不器用な子どもへは濃い鉛筆の使用、グリップの使用も考えられます。そして、子どもの正面で指示し、ゆっくりとした口調で話すことを心がけ、聞く音と文字とを対応させる手立ても必要でしょう。

(5)「算数」が苦手(九九、筆算等)

九九を覚えることが苦手な子どものなかには「聴覚系の認知の弱さ」「短気記憶の弱さ」がある場合が考えられます。また、分からないための不安や混乱が九九を覚えることへの妨げになっている場合があります。カセットテープの使用、九九カードの使用等が考えられます。



筆算の苦手な子どものなかには「空間認知の混乱」があるために、位がうまくそろえられない、また「短期記憶の弱さ」があるために、くり上がったことやくり下がったことを忘れてしまい計算間違いがあるなどが考えられます。このような場合には、マス目のあるノートの使用、くり上がりくり下がりの方の数の記入、ノートやプリントの背面の色を変えてみるなどの手立てが考えられます。

いくつかの困難と支援について述べてきましたが、これは一部に過ぎません。ですから、例えば「聞く」ことが苦手であること一つをとっても、この他の背景がある場合、支援の方法も変わってきます。子どもの様子をよく観察し、実態把握をしっかりとっていくことが基本となるでしょう。